



一般社団法人  
**日本助産学会**  
**ニュースレター**

No.88

The Japan Academy of Midwifery Newsletter

## 巻頭言 新年にあたってのご挨拶

日本助産学会 理事長 高田 昌代

会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

日頃は、本会の活動にご理解ご協力いただき、心からお礼申し上げます。

昨年末に2018年度「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞に、DV、貧困、災害など女性の人権を脅かすさまざまな課題に息長く取り組んできた、正井禮子さん（ウィメンズネット神戸）が受賞されました。本会の学術集会でもお話しいただいている正井さんの受賞は喜ばしいことです。この賞は、アメリカ在住の日本人女性、厚子・東光・フィッシュ氏が、日本女性の活動に光を当て、女性のロールモデルを示すことに役立ちたいという思いから、パブリックリソース財団と協働して、2017年に創設されました。その正井さんが授賞式で阪神淡路大震災時の話をしたいと言った際に、厚子・東光・フィッシュ氏から、「過去のことではなく、これからのことや夢を話してほしい」と言われ、ハッとしたりと教えてくれました。昨年のことを書こうとしていた私も、心を揺さぶられました。皆様の夢や今年の抱負ははいかがでしょうか。

日本助産学会の今年のことをいくつか知っていただきたいと思います。

本学会では、オンライン投稿システムの導入による査読の迅速化を進めると同時に、学会誌のオンライン発刊を行います。手元に学会誌が届かないのは少し寂しい気もしますが、一方で時期や場所に縛られずに読めるようになります。助産学研究は、様々な研究の積み重ねです。エビデンス確立のためには重要な研究もあれば、妊産婦ケアの事例研究も実践の場では広く活用できる素晴らしい

研究です。助産実践、教育、研究の場それぞれで活躍されている助産師全員が研究者ですから、皆様、奮って学会誌への投稿をお願いします。

2019年1月現在、本学会の学会員は2,869名となりました。昨年総会時から約1割増です。多くの助産師が本学会員になることに意味を見出しているのだと有り難く思っています。しかし、この人数は残念ながら就業助産師数の1割弱です。助産師という専門職にとって、学会員となることの意義や必要性を多くの方に持ってもらえるような学会になりたいと思っています。

これからの助産学会の発展は、若手研究者が担っていることは言うまでもありません。ご自身の努力は勿論ですが、その努力が実を結んでいくためには、仲間が存在、様々な支援も必要です。本学会は、若手研究者への研究助成をはじめ、現在日本学術会議若手アカデミーの副代表と国際分科会の委員長として活躍されている新福洋子さんを中心として、本学会の若手研究者の支援を始めています。今年は委員会を組織し、益々強化していきます。

母子や女性の支援が本学会の役割であるなら、世界の女性の支援も本学会の役割です。既に視聴された方もいると思いますが、トヨタ財団の支援で、アジアの女性のお産の体験が収録されました。日本女性の主体的な出産体験が、女性の人生に大きくかかわっていることが収録されています。会員の皆様が自由に見られるよう、早々に対応を考えています。また、在住外国人への支援も近々の課題と認識しているところです。

これらの他にも、助産政策を助産師の身近なところとなる取り組みや助産ケアに関する研究成果を基盤に、平成32年診療報酬改定に向けた提案書作成と提出、CLOCMiP対応研修（ワークショップ

ブ)の開催など、日本助産学会は6つのビジョンを掲げて、今年も多くの実業を展開してきます。

今年、猪年です。猪は猪突猛進と、向こう見ずに走っていくという印象が通常ですが、とても鼻の効く繊細な動物です。その能力は犬の10倍とも言われています。日本助産学会も猪にあやか

て進む年にしたいと思っております。

今年も、会員の皆様が健康でご活躍されることを願っています。3月には、福岡でお会いしましょう。

(2020年6月インドネシア・バリで開催されるICMへの発表のご準備を！)

## 第33回日本助産学会学術集会からのお知らせ

第33回日本助産学会学術集会長  
九州大学大学院医学研究院保健学部門教授  
谷口 初美

り、母子や女性のニーズを嗅ぎ分ける能力を高め学術集会開催の3月1日まで、ついにカウントダウンする日々となりました。

本年度は、日本の助産の力を世界にアピールする思いで前ICMの会長 Mrs. Frances Day-Stirk氏をお迎えして開催することにしました。

幸いなことに、抄録数も過去最高の295件に上りました。その中で初めての試みとなる英語による口頭演題にも6件の応募があり、そして助産師教育の学校の学生ポスターは14校からの応募となりました。また、この学会を盛会に運営するために大勢の企業・団体のみなさまのご協力とご支援が得られました。ランチョンセミナー7社、企業展示31社、書籍展示7社、広告11社、寄付・その他2社です。1月15日までの事前登録には、既に1,000名近くが事前登録を済ませ、懇親会もほぼ満席状態となっております。学術集会の当日におきましては、この倍近くの参加者が集えても

対処できるスペースを確保しておりますので、ご安心ください。日本中から大勢の助産師姉妹たちと学び、交流を通じて楽しい実りある学術集会となることを期待いたします。みなさま、お誘い合わせの上ご参加をお願いします。

福岡は、交通の便が良く、春の陽光をいち早く浴びることのできる九州随一の大都市です。ただ、1点ご注意ください。福岡はあまりの良い利便性で多くのイベントが一度に集中することがあり、その際、大勢の人々が集まるためホテルを確保することが難点です。学会HPの宿泊予約は1月31日まで延長しております。どうぞお早めにホテルの確保をお願いいたします。

それでは、みなさまのお越しを企画実行委員一同心よりお待ちしております。

## ICMからからのレポートin 2018年下半期 —ICM西太平洋、東南アジア、東地中海3地域合同会議

ICM West Pacific 担当理事 谷口 初美

2018年の下半期、ICMは、世界中でICMの活動を精力的にアピールした。その大イベントの1つが、2件の地域会議(①3地域合同会議:9月6~8日 in ドバイ、②南北アメリカ地域会議:11月7~9日 in パラグアイ)であった。この間に、9月下旬の米国・ニューヨークでの国連総会、10月にはブラジル・リオデジャネイロでのFIGO(国

際産婦人科連合)においても会長以下、理事が積極的な助産師の活動を講演した。

地域会議は、2017~2020年までのICM戦略的目標(質、公平性、リーダーシップ)を地域に行き渡らせる目的で開催される。今回の3地域合同会議の概要は、加盟団体の日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会から報告されるため、私は

オーガナイザーの1人としての視点から報告する。

出席者は、37カ国から約200名と小規模であったが、学術集会（約80演題で日本からは6演題）と各地域会議では、その内容の充実ぶりと参加者の熱意によって予想以上に盛会となった。今回は中東ドバイでの開催であったがICM本部主催による初めての3地域合同会議となった。財政面や開催地との交渉等による伝達の遅れと地域会議の関心の薄さが小規模に繋がった要因であった。地域別参加者は、西太平洋(60名)、東南アジア(47名)、東地中海(37名)で、国別上位はICM 2020★本会議のホスト国であるインドネシア(25名)と、日本(14名)、バングラデシュ(11名)であった。

オープニングセッションでのヨルダンの王母 Muna 殿下のメッセージは、中東の母子保健に積極的に貢献している殿下ならではの力強い助産師職能への敬意と励ましと支援であった。また、会場で賑わう助産師の熱意と活発な活動も相まって、開催会場の医学大学総長に助産プログラムの新設を促す絶好の機会となった。このことは、助産師が少ない中東の地で開催した大きな成果であった。また、ICM 戦略的目標のリーダーシップに関する Franka Cadée 会長の講演では、世界の助産師のリーダーとして岡本喜代子前日本助産師会会長が紹介された。

最終日の西太平洋地域会議では下記の内容が協議され、活発な発言があった。

- ①地域内の伝達：伝達プラットフォーム構築
- ②次期地域からのICM候補者：従来通りで立候補
- ③次期地域会議の形態、候補地：3地域合同ではなく西太平洋単独で開催（立候補はパプア・ニューギニア、香港）
- ④ICM戦略目標（質、公平性、リーダーシップ）：ICM Global Standardsによる質の向上を加盟

団体だけでなく非加盟団体へも伝達する努力、母子保健政策面への参加など

これらの結果は後日3地域合同会議のサマリーとしてICMから報告される。

今回の地域会議の様子はICMホームページから写真や動画で閲覧できる

(<https://internationalmidwives.org/> および <https://www.midwivesdubai2018.org/>)。

★3年毎大会（2020年6月21～25日 インドネシア・バリで開催予定）



会場の The Mohammed Bin Rashid Medical Center の総長（左）とヨルダン王母 Muna 殿下（右）



ICMのFranka Cadée会長（左）とヨルダン王母 Muna 殿下（右）

## “ICM東地中海、東南アジア、西太平洋の合同地域会議”参加報告

日本助産学会 国際委員会委員長 有森直子  
国際委員 橋本麻由美、片岡弥恵子

今回の会議には、37か国約200名の助産師が集まりました。日本からも約15名が参加しました。本会からは、国際委員長として有森直子が参加し、国際委員の橋本氏が、ポスターで「アジアに

おける出産の多様性と共通性」を発表しました。また、次期学術集會長を務める谷口初美氏は、西太平洋地域地区理事としての本部運営、また地区会議のファシリテーターと、大活躍をされています。

した。会期中に会場で Mission of JAM を配布したところ、日本と共同研究をしたいという要望が複数寄せられました。

以下、日本助産師会 国際委員会委員長の片岡弥恵子氏との共著にて、学会の概要を報告いたします。

International Confederation of Midwives（以下、ICM）の大会は、3年に1回開催され、前回のトロント大会（2017年）は皆さんの記憶にも新しいのではないかと思います。ICMは、113か国132団体が加盟しています。世界の国の数は196か国（外務省、2018）、したがって約6割の国の団体がICMに加盟していることとなります。ICMに加盟する国は、6つの地域に分かれています。日本は「西太平洋」地域に属していますが、その他には、東地中海、東南アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ地域があります。そしてICM大会とは別に、3年毎に地域会議が行われているのです。前回は、2015年横浜で行われました。

そして、2018年9月6～8日に、ICM 東地中海、東南アジア、西太平洋の合同地域会議（ICM Combined regional meeting for Western Pacific, South-East Asia and Eastern Mediterranean regions）が、アラブ首長国連邦のドバイで開催されました。今回は、前述のように3つの地域（東地中海、東南アジア、西太平洋）合同での開催です。テーマは、「助産師は良質で公平なケアの提供をめざす（Midwives leading the way for quality and equity）」。これは、ICMの2017-2020の戦略目標である「質、公平性、そしてリーダーシップ（Quality, Equity and Leadership）」に連動しています。基調講演にて Sue Bury 氏は、「平等（equality）」と「公平（equity）」の概念の違いを説明しました。平等（equality）とは、それぞれに同じものを同じ量だけ提供することです。一方、公平（equity）は、そもそも状況やスタートが異なっていることを前提に、それぞれが同じになるような量を提供することです。公平（equity）は、フェアネスと言い換えられます。助産師のケアにおいては、すべての女性がこの公平（equity）が提供される権利を持つことが強調されました。

それでは、合同地域会議の開会式の様子からご紹介したいと思います。開会式は、ヨルダンの Muna al-Hussein 王妃のご挨拶から始まりまし

（写真1）。王妃からは、助産師への大きな期待が語られました。そして、ICM 会長からの挨拶、東地中海、東南アジア、西太平洋、各地域からの代表である理事の紹介がありました。現在、西太平洋地域からの理事は、谷口初美氏が担っていただいています。その後は、Sue Bree 氏の基調講演、授賞式へと続きました。華やかなエンターテインメントはありませんでしたが、心温まる開会式であったと思います。



写真1 Muna al-Hussein 王妃のご挨拶



写真2 アラブ首長国連邦の助産師との交流

今回の会議中に、アラブ首長国連邦の看護・助産評議会（教育、実践、免許等を管理している組織）や看護協会のメンバーと話し合いの機会を得ました。それぞれの国における助産の現状、課題をプレゼンし、ディスカッションを通して理解を深めることができました。アラブ首長国連邦の中でもアブダビには助産師の教育機関がありますが、これまでドバイにはなかったそうです。今回の会議中に嬉しいニュースがありました。会場となっ

た Mohammed Bin Rashid University に助産師の教育機関を新設することが決まったとのことでした。ICM 大会や地域会議の開催が、新たな変化を起こしていく契機になっていくことがわかりました。今回の交流を通して、アラブ首長国連邦の助産師と交流を始める機会になるとよいと思います。(写真2)



写真3 ワークショップ“敬意を込めた (respectful) 助産ケア”でのロールプレイ

3日間のプログラムは、4会場に分かれて、キーノートセッション、ワークショップ(3題)、約100題(内ポスター22題)の研究や実践報告が発表されました。そのうちのいくつかを報告したいと思います。口演は、まず“助産の実践的技術”のセッションが大変興味深かったです。オーストラリアの助産師から地方の施設で助産ケアを維持するための報告があり、助産師のケアは、”too much, too soon, too little, too late”ではいけないという言葉が印象的でした。パキスタンからは、アクティブラーニングをコスト削減の点から報告していました。日本からは、日隈氏の My midwife system の試みについて、助産師がリードする継続ケア

(Midwife-led continuing care :MLCC) の報告がありました。さらに香港からは、超音波を使用した乳房ケアの報告があり、質の向上をめざしつつコストや人員の省力化も配慮しなければならない状況は共通していました。続いて、“正常出産における改善すべき実践”のセッションでは、サウジアラビアから、出産の医療化がいかに形づけられたかを事例で説明するものと、陣痛を低減する背部マ

ッサージ効果の2つの報告がありました。他には、“助産師の実践能力としてのキャパシティビルディング”“サービスをリードする助産師のための方略”“助産師の強靭性 (strengthening)”など、セッション名にもこれからの助産師の方向性を表す用語が使用されていました。また発表後、発表者と座長が壇上にあがり話し合うスタイルも新鮮でした。

ワークショップは、“ストーリーテリング”や“アドボカシー”を題材にしたワークが活発に行われていました。“敬意を込めた (respectful) 助産ケア”ワークショップは、迫真のロールプレイを取り入れて respectful ケアと disrespectful ケアの違いを示し、参加者がディスカッションするという充実した内容でした(写真3)。スポンサー主催の「ファーストタッチ」もとても盛況でした。ポスターは、日本からは、日本助産学会国際委員会からの「アジアにおける出産の多様性と共通性」他2題が発表され、助産関連3団体は、各々リーフレット等での活動PRも行っていました。(写真4)



写真4 国際委員橋本氏のポスター

次期 ICM 大会長の Emi Nurjasmı 氏 (インドネシア) は、今回 20 名を超える助産師を連れ、統一したユニフォームで次の ICM 大会の PR (2020 年 6 月 21~25 日バリ) を行っていました。同じ地域での開催です!

日本からも参加し、皆で盛り上げましょう。

「健やか親子21（第2次）」では、基盤課題の一つに学童期・思春期から成人期に向けた保健対策の充実に向けて思春期の子どもたちが学校の先生や親には少し恥ずかしくて聞きにくいことをまとめたリーフレット「Adolescence」の広報活動の一環として、映画会社の御協力により、映画「まく子」とタイアップした普及・啓発ポスターを作成しました。

【特設サイト（厚生労働省×映画「まく子」とのタイアップ）】

[https://www.mhlw.go.jp/houdou\\_kouhou/kouhou\\_shupan/makuko-movie/](https://www.mhlw.go.jp/houdou_kouhou/kouhou_shupan/makuko-movie/)

<参考>

【報道発表（映画『まく子』とタイアップをしました）】

[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/newpage\\_00014.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/newpage_00014.html)

映画『まく子』（3月15日（金）全国ロードショー）

映画『まく子』は、直木賞作家・西加奈子の同名小説を映画化。ひなびた温泉街を舞台に小学5年生の主人公が、ある少女との出会いをきっかけに、“大人とは何なのか”を探求する成長物語です。作品では、子どもと大人の狭間で揺れ動く思春期の微妙な心の変化と、葛藤しながら成長していく主人公の姿が描かれています。

厚生労働省では、思春期の子どもたちに対して、学校の先生や親には少し恥ずかしくて聞きにくいことをまとめたリーフレット「Adolescence～わからないことがここにある～（※）」を公開しています。これは、2001年から開始した「健やか親子21（※2）」の取組の一環です。

（※）「Adolescence～わからないことがここにある～」

Adolescence(思春期)の子どもたちのからだのこと、生活のこと、性のこと、こころのことを掲載しています。

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/adolescence.pdf>

また、中学生・高校生2万人を対象とした思春期アンケート調査の結果について「健やか親子21」公式ウェブサイトで公開しています。

[https://sukoyaka21.jp/puberty\\_survey\\_2017#](https://sukoyaka21.jp/puberty_survey_2017#)

【タイアップ企画の内容】

(1)タイアップポスターの作成

(2)特設サイトの開設

[https://www.mhlw.go.jp/houdou\\_kouhou/kouhou\\_shupan/makuko-movie/](https://www.mhlw.go.jp/houdou_kouhou/kouhou_shupan/makuko-movie/)

## ICM募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

ICM 支援のための募金を常時受付けております。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆  
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

## 事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

### 今年度(平成31年度)会費(10,000円)について

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。

円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願いいたします。過年度の会費が未納の方は今年度分と合わせて、早急にお振込み下さい。

今年度は代議員および理事の選挙の年です。6月末時点で会費完納の方が選挙人対象者となりますので、よろしくお願いいたします。

ご不明な点は、事務局までお問い合わせ下さい。

《会費振込先》

・郵便振込:00120-2- 763540

加入者名:一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込:ゆうちょ銀行(9900)

〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)(当座)

0763540 一般社団法人日本助産学会

(シャ)ニホンジョサンガツカイ)

・氏名と会員番号を通知してください。

学会誌投稿や学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になりますので、応募される場合は、会費納入をお済ませの上お申し込み下さい。

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。

郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先に E-mail か FAX でご連絡ください。

なお、年会費の書類(請求書・領収書等)の発行が会員情報管理システム上から、オンラインでの即時発行が可能ですので、是非ご利用ください。

詳細はこちら:

[http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt\\_issuance\\_manual.pdf](http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt_issuance_manual.pdf)

※但し「口座引落」ご利用の方は、振替結果データ受信後となるため日程の都合上オンライン領収書の発行は、引落日から一週間後以降となりますのでご了承ください。

### 変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システムで変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページから ID(会員番号)とパスワードでログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム:

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。変更届の書式は問いませんが、本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

## 退会届について

退会を希望される場合は必ず、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。

書式は問いませんが、本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできます。

\* 次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会の届け出をお願いします。

退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。

特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意くださいのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。

ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバーのお申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail 添付送信するか、FAXしてください。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

※「エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期 2016」は、委託販売(株)日本助産師会出版)となっておりますので、以下の URL からお申し込みください。

<http://www.midwifepc.co.jp/fs/shuppan/shoseki/I-0002>

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1-4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>



一般社団法人

日本助産学会ニュースレター

No.88 2019年2月発行 (Web版 No.12)

発行: 一般社団法人 日本助産学会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

URL: <http://www.jyosan.jp>

代表者: 高田 昌代